

# なかかわ

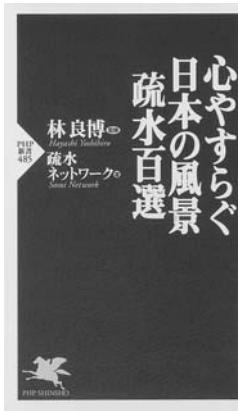
那珂川町郷土史研究会



## 倉掛堰周辺

## 裂田溝22

新しい年を迎えて、うれしいニュースをお知らせいたします。実は昨年11月に、PHP研究所より『心やすらぐ日本の風景疏水百選』が発行されました。



ちに待った疏水百選認定証「平成18年3月」が交付されたときの喜びが大きかったことなど…。この本の中には、随所に裂田溝についての記述が見られます。那珂川町は、平成8年にも「肥前・筑前街道・脊振坂越」が文化庁の「歴史の道百選」の認定を受けています。二つの歴史遺産の認定を持つ町は、全国にも数少ないのではないかでしょうか。あらためて「書紀の里」づくりに恵を絞り、何ができるかをみんなで考えてみたいと思っています。

裂田溝の大改修工事も4年目にに入り、いよいよ最終年度を迎えました。現在、小柳地区の工事が行われ、どの工事が進められています。

湯浅殿橋下は、大樹が水辺にかかるように茂っています。これより先は前方が一面明るくなり、南側の田の土手は右から左へと大きく張り出し、溝もまた寄り添うようゆつたりと流れを変えています。この田の地名を「板井崎」といいます。こ

農水省の公募にあたり、那珂川町の歴史遺産である裂田溝のPRのために、資料を添えて「疏水百選」に応募したことを思い出しました。待

こは、平成14年度に発掘調査が行われました。その結果、水路の跡が発見され、見つかった「木杭」から年代は14世紀前半のものであることが分かりました。そのほかにも繩文式

土器や土師器、陶磁器などが出土しました。

田には、排水用の「落水口」が二カ所あります。稲刈りが終わるとすぐに耕運機が活動を始め、あつという間に田は野菜畑へと変身します。土起しが始まる7、8羽のシラサギが飛んできて、行列よろしく耕運機の動きに合わせ、土の中から小さな力エルなどをつばんでいるの野菜が育つのです。江戸時代に書かれた『筑前統風土記・土産考』に、名産として「那珂郡山田村産の牛蒡も美味」と記されています。小柳の農家の人は「山田のゴボウを市場に持っていくと、一番先に売れていた」と話されていました。

板井崎の田の東側は、薬師川が流れています。薬師川の源流は不入道と長谷林道の境辺りで、寺山田の集落の中を流れ、途中の田へ水を送りながら裂田溝に突き当たる形で合流します。この合流点に「取水口⑧」と「長谷林道の境辺りで、寺山田の集落の中を流れ、途中の田へ水を送りながら裂田溝に突き当たる形で合

ります。次号は、横枕堰周辺を紹介します。

板井崎の田の東側は、薬師川が流れています。薬師川の源流は不入道と長谷林道の境辺りで、寺山田の集落の中を流れ、途中の田へ水を送りながら裂田溝に突き当たる形で合流します。ここでせき止められた水

先日号で紹介した「風車井堰」は、「風早井堰」の誤りでした。

お詫びして、訂正いたします。

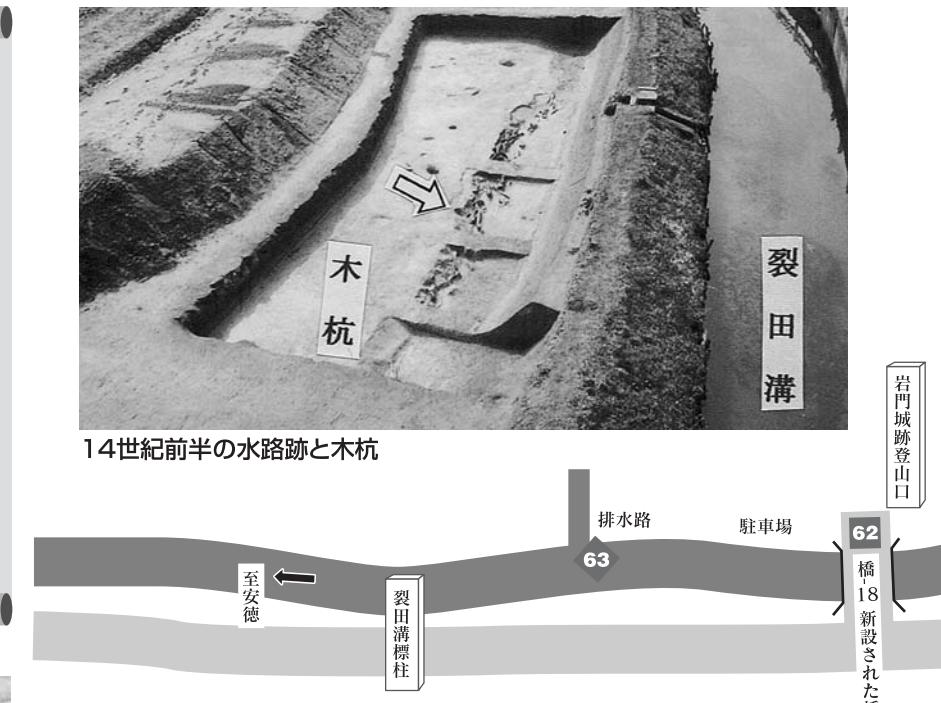
**コースメモ**

- 57. 橋 - 17 (湯浅殿橋)
- 58. 落水口 (上流側)
- 59. 落水口 (下流側)
- 60. 薬師川
- 61. 取水口 - ⑧ (倉掛堰)
- 62. 橋 - 18 (新設の橋)

次号へ  
裂田溝標柱

**史跡メモ**

岩門城跡登山口



裂田溝に飛来するカワセミ



薬師川と裂田溝の合流点、倉掛堰



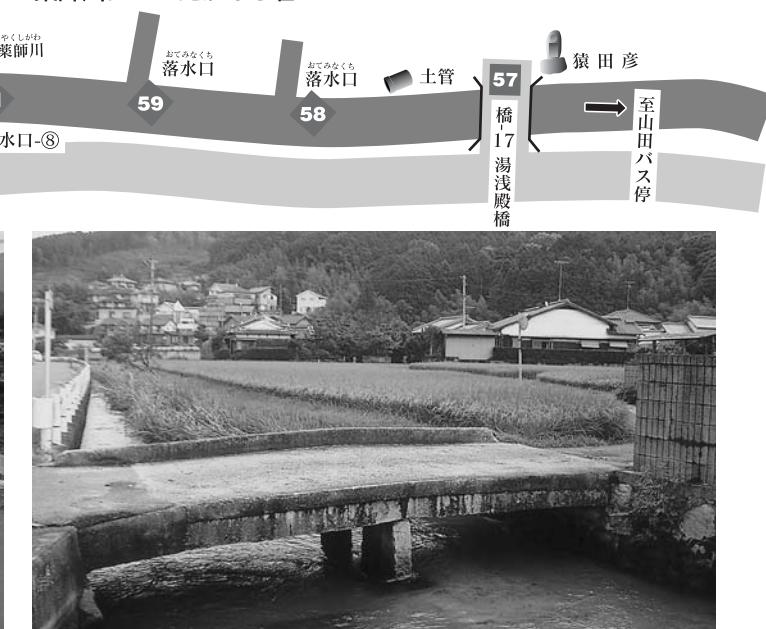
薬師川に一つだけの汲ん場



薬師川に一つだけある堰



新設された橋／新しい橋の名前が考えられています



僧原橋／永年のお役目ご苦労さまでした